

私たちちはC A Pを選びました

ここに記載の体験談はC A Pで留学された方にお書きいただいたものです。これらの留学生の中には2006年夏現在で、すでに卒業されている方もいらっしゃれば、社会人になっていらっしゃる方もいます。あらかじめご了承ください。最後にはご家族のコメントもあります。写真はイメージ写真です。

環境を与えてくれた家族や帰る場所をキープしてくれた友達に感謝しています



6月に
予定通りの3
年間で
卒業す
ること
ができ
ました。
何もわ

からない中でいつも親切に、そして親身に答えてくださったりと、本当にお世話になりました。ありがとうございました。この9月からは第一志望であった大学で International Development と政治のダブルメジャーで勉強してゆきたいと思っています。カナダからこれからも日本を、そして世界中の日本を見てゆきたい、そして日本にその知識とともに戻ってきて、それを生かせる仕事に就きたいと考えています。のために、もしかしたら大学3年の時に日本の大学に編入し、そこで日本からの視点で学び直すのも必要かな、などと色々考えを巡らせています。

周りは「どうして York University 行かないの」だとか聞いてきたんですが、名前じゃなくプログラムの内容や学校の規模から、自分が1番好きなこと、興味のある学校にしました。日本にいて受験戦争の中にいたら無理だった選択ができたな、と言う充実感があります。これからは、「どこにいても日本人である」という意識を大切に、そしてそれを「大切な財産なんだ！」という思いとともにオンタリオでも頑張ってゆきたいと思います。そのような環境を与えてくれた家族、サポートし常に帰る場所をキープしてくれた友達、また、いろいろとお世話になったC A Pのスタッフの皆さんに感謝しながら、充実した日々を気づいて行きたいです。今までサポートしていただきありがとうございました。

TS さん、ロックリッジ高校卒業後カナダのトrent大学へ進学

彼らは何をするにも楽しんでやっている

僕が留学しているのはカナダブリティッシュコロンビア州のペントリクトンというすごく小さな町だ。車だと町の端から端まで20分でいける。そんな小さな町だが夏は結構有名なところだったりする。この町は2つの湖に挟まれている。だから夏にはトライアスロンがある。それが夏の一大イベントだ。冬は何てたってスノーボード、スキーと楽しいことだらけの町だ！

こっちに来ての感想はすごくみんなのびのびしていること。そして何をするにも楽しんでやっている。そして何よりも自然がたくさんある=町には何もない。だから都会人がこっちに来て住むと不便かもしれないが、僕みたいな田舎者が住むにはちょうどいいかもしれない。



僕がカナダに来た理由はカナダのメインスポーツ、アイスホッケーの力をつながら高校を卒業するため。今は地元の社会人リーグでプレーしている。試合はだいたい毎週2回。平日の夜10時から。家

につくのが毎回夜中の12時半から1時だ。すごく次の日の学校に響く・・好きだからできることだけだね。そしてペントリクトンにはペントリクトンパンサーズというジュニアAでも上位のチームがある。かつてそのチームにはあのポール・カリヤやブレット・ハルなどのプレーヤーがいた。ひとまず今の段階の目標はこのチームにはいることだ。

KY さん、ペントリクトン高校卒業

バランスの取れた生活が大切

国よりも優れていたからですが、一番私を惹き付けたのはカナダの教育システムに関してだったと思います。あの頃はプログラマーやコンピューターエンジニアに憧れていたので、パソコン教育に関しては世界でも群を抜くカナダに興味が湧きました。初めてのホストには同じ年一人と小学生二人の3人姉妹がいて、仲良くしようにも言葉がまったく通じずお互い戸惑うばかり。挙句の果てに、上の子とは『挨拶したのに無視された』とお互いに勘違いをし、気が合うどころかほとんど犬猿の仲にも。結局『ホストファミリーを移りたい』と願い出て、散々周りの方々に迷惑をかけた後に夏休みまでの数週間を新しいファミリーと住むことになりました。夏休み中はBCでサマースクールに通いそこで祖母のような年齢の女性の下に住み、その後またウィニペグに戻ってきてから1年間リタイヤされた老夫婦の下に住みました。2年目からはデビジョンを移り、そこで独身女性の下に住み、気に入ったので高校二年生からずっとそこに住んでいます。最終的に5回違うホストファミリーと住むという経験をし、処世術も学ぶことができました。家々によってルールも価値観も変わってきますし、家事をしなくて良いといわれるホストがいれば、反対に食器洗い、バスルームの掃除、地下の掃除機掛けと山のように家事を手伝わされる家もあります。初めに苦労したのが功を奏したのか、我慢強さを身につけ、今では家事手伝いを苦に思うことはなくなりました。英語が上達するにつれて上手に交渉ができるようになったので、文句言わずに家事をこなす代わりに門限を遅めに

私たちはC A Pを選びました

してもらうなど、冷静に物事を進めていくことを覚えました。

ホストからの信頼を手に入れるとともに、学業の方にも力を入れました。英語が下手なりにも、きちんと課題を提出することで教師にやる気を見せ、授業についていくのが辛くなれば ESL の先生に相談して解決を試みました。その甲斐あってか留学1年目では60%くらいを漂っていた成績も二年目で平均が85%に上がり、3年目で大学に提出した時点で94%まで上がりました。英語のクラスはついていくのが大変なのですが、エッセイやプレゼンテーションが成績の大半を占めますので、基本的に課題さえすれば60%は取れます。TOEFLは243点で大抵の大学のリクワイアメントに通り、3年間の努力の結果としてトロント大をはじめ3校に奨学金付きで受かることができました。カナダで生活していくうちに、当初のコンピューター関連の夢からビジネスへ進む道へと軌道修正をしましたが、趣味としてプログラミングやウェブデザイン・ウェブグラフィックなどのコースを多々取りました。カナダの高校の長所は色々なことを経験できることだと思います。高校によっては科目数が多かったり、特別コースが設けられていたりと様々な特色があるので、学校選びはパンフレットを集めたりホームページを調べたりして自分に合った場所を探すと良いのではないかでしょうか。カナダには『出る杭は打たれる』という諺はなく、向上心と努力さえあれば誰にでも夢を掴むチャンスが与えられます。周りに流されず、最初に抱いた目標を忘れずにそれに向かってつき進んでいくということが大切なのだと私は思います。かといって勉強が全てなわけではなく、週末は市内の日本人留学生で集まって遊んだり、カナダ人の友達と映画に行ったりと息抜きをしたり。勉強と遊びと、バランスの取れた生活をすることが、カナダ留学を楽しむコツだと思います。



SMさん、ビンセントマッキー高校卒業。カナダの大学へ進学

教育レベルの高さと費用の安さ

カナダはアメリカやイギリスに比べ、留学の費用が安く、しかも教育レベルが高いことが魅力でした。ニュージーランドやオーストラリアも考えたのですが、教育の質の高さと、将来大学進学まで考えた場合経済的で、良い大学も多くあることからカナダへの留学を決めました。僕の通っている高校は州都のハリファクスから約1時間のローワー・サックビルにあります。日本人もまだほとんどおらず、学校にも自分を含めて2人しかいません。物価も安く、国際電話もできる1時間分のテレフォンカードがなんと10ドル(約900円)! 床屋でのヘアカットも約10ドルの安さ。フリーマーケットなどもを利用して節約に励んでいます。

MKさん、ミルウッド高校在学中

ESLが充実している



留学当初は自分の英語力のなさにショックと怒りがこみ上げてきたのを覚えています。ただ、多国籍の人人が集まるカナダでは、ESLの授業は盛んに行わ

れています。高校だけでなく、短大や大学でもESLクラスがあるので英語を学ぶには最適な環境だと思います。

AMさん、ジョンバースビー高校卒業

アメリカのニュースキャスターが話す英語はカナダ英語

アメリカのニュースキャスターが話す英語はカナダ英語が基準になっているといわれていると聞きました。やはり留学するからにはきれいな英語を

私たちはC A Pを選びました

身につけたかったのでカナダを選びました。学校の先生の英語もホストファミリーの英語も癖がなく、聞きやすかったです。

カナダは移民の国なので町にはアジア系、ヨーロッパ系と多数の民族が混じっています。そういう理由から他国から来た人々に対しての英語教育はしっかりとしています。留学当初は高校のESLコースから英語を学び、卒業時点はTOEFL 230点を越えるまでになりました。

NKさん、ウェストビュー高校卒業後、サイモンフレイザー大学へ進学。コメントは卒業時のもの

コンピュータを学ぶならカナダ



僕が通っている学校にはコンピューターラボが5部屋あり、図書室やサイエンスラボにもコンピューターが常設されていてコンピューターには事欠きません。コンピューターを利用するコースもたくさんあり、なかでも、僕の受講した Computer Science は本格的なプログラミングが学べます。さらに、Software Application というコースがあり、ホームページ作成など、ソフトウェアを使ってあらゆることをします。

他にも、科学の実験には専用のグラフ作成ソフトを使いますし、English や Social Studies のプロジェクトではインターネットを頻繁に使います。現在通っている高校はアメリカのMITやハーバード大学へも多数の進学者を出している名門校。教師の方々も優秀で、留学生のサポートもしっかりしています。将来はアメリカの大学でコンピューターサイエンスを学びたいと思っています。

YM、FR高校卒業後、ウォータールー大学へ進学。コメントは在学時のもの

心豊かで寛容な人々。文化レベルの高さを感じます



「将来仕事で役に立つのは英語だ」と思い、留学先は北米にしようと思っていた。留学先をアメリカではなくカナダにしたのは、治安の面を考えたからです。あと、カナダの自然に惹かれたのも理由

ですね。実際私の住んでいる地域の自然はとてもきれいなんですよ。学校でもホームステイ先でも、文字通り英語漬けの毎日だったので、私にとっては最適でした。

カナダに留学して3年たちますが、カナダ人は心豊かな人々だと思うことが多いです。人に対して寛容であり、異文化を受け入れ、自分たちの持っているものを分け与えようといった意識が常にあります。学校の中でも勉強でわからないことがあると教えあう、励ますといったことが日常的に行われています。日本のようにライバルには教えないという閉鎖的な態度はありません。



時にのんびりしすぎていて日本人の私にはいろいろすることも多いのも確かですが、譲り合い、他人を尊重しますし、社会に対してのマナーがしっかりしていることを考えると文化レベルが高いのだなあと思います。また、税金が高いため老後の

私たちはC A Pを選びました

保障がしっかりしているので、豊かな老後を送っている人が多いような気がします。老後の悲壮感はなく、みな、リタイヤしてのんびり旅行や趣味を楽しむことをひとつの目標としているようです。学校の授業で私が得意だったのは数学と理科。各教科独特な言葉の使い方などがあり、最初は大変でしたが慣れれば後は簡単でした。今の学校でも数学を専攻しています。今は高校を卒業して現地の大学へ進むための予備大学(CEGEP)で勉強しています。18歳になり念願の一人暮らしも始め、充実した毎日です。カナダの名門マギル大学を目指しているのですがアメリカやイギリスの大学もいいし、フランス語も学んでみたいし、大いに悩んでいる最中です。

SOさん、ケベック州モントリオールのセントトーマス高校を卒業。その後大学に進むためのカレッジ、CEGEPを経てマギル大学在学。体験談はCEGEP在学中のもの

カフェテリアでの料理も授業



学校のカフェテリアで料理を作るコースをとりました。クックトレイニングは選択

科目のひとつとして認められます。食品衛生や献立作り、材料仕入れと保管などの理論と、タマネギのみじん切りから、ステーキ、中華、シナモンロールからケーキまでプロのシェフについて学びました！作った料理は学生に大人気でした。とても楽しかった。コースの最後に修了キャンプに参加し、試験をうけて簡単なカナダの調理師免許の資格も取得しました。



TYさん、メイプルリッジ高校卒業

カナダ人の友達ができました



ムな男性。そしてどこの国でも通じる英語。また、日本の勉強ばかりの同じ毎日の繰り返しに退屈していたので何か新しいことがしたいと思い留学を決意しました。

留学先にカナダを選んだ理由は自然が多く、ゆったりとマイペースに生活をしていて、カナダ人は穏やかだというイメージがあったのと、癖のない聞き取りやすい英語、そして大学進学の時に必要な英語力が身に付くと思ったからです。また、経済面でもアメリカやイギリスより安いというのも魅力的でした。

楽しいことばかりを想像してカナダに留学しましたが、実際は毎日苦労の連続でした。カナダではすでに多くの留学生がいるため、留学生は珍しくなく、カナダ人の生徒たちは私に全く興味を示さず、まるで空気同然の存在でした。多少英語には自信があったのですが、少しの発音の違いで理解してもらえないかったり、単語力が少ないせいで、相手を理解できなかったりもしました。自分から話しかけないと、全く相手にされません。かといって、勇気を出して自分から話しかけてもなかなか日本人との会話のようには続かず、何度もくやしい思いをしました。友達ができない孤独に耐えられず同じ国同士で固まってしまい、2年も3年もカナダで暮らしているのに、ほとんど英語の上達が見られない留学生が多くいたのにはびっくりしました。

勉強面では分厚い教科書を読んで理解するだけでも数時間かかる上に、質問に答えられなければならないので、今までにないくらい毎日宿題に追われていました。そんな生活の中での唯一の楽しみは食べること。カナダの食事は日本よりもボリュームがあるので、日本にいるときの何倍も食べて

私は外国にあこがれています。大きな家にきれいな町並み。映画に出てくるような金髪で青い目のハンサ

私たちはC A P を選びました

しました。なんと3ヶ月で5キロも太ってしまったのです。それでもめげずに話しかけ、自分からランチに誘ったりしていたら、だんだんカナダの方から誘ってくれるようになりました。そして初めてパーティに誘ってくれたときは本当にうれしかったです。



そのパーティ以来、放課後は一緒にカフェに行ったり、週末はお泊まりをしたり、毎日がとても充実してきました。勉強も教えてもらったりして、数時間かかっていた宿題も、遊ぶ余裕ができるくらいになりました。友達ができてから英語の上達が3倍くらい早くなった気がします。本当にあきらめずに話しかけて良かったと心から思います。留学して学んだことは何をするにも努力が必要だと言うことです。そしてその努力は何らかの形で必ず報われると思いました。楽して幸せを手に入れる人もいるかもしれません、努力をしたほうが数倍の充実感と喜びが手にはいると思います。



留学して私は精神的に強くなりました。また、離れてみて初めて家族の大切さを実感しました。留学は本当に私のプラスになったと思います。
KHさん、ジョンバースビー高校卒業。体験談は卒業時のもの

11年生で Visual Basic を勉強



11年生のコンピューターサイエンスでは、Visual Basicというソフトを使ってプログラムを作ります。生徒は最後のプロジェクトに神経衰弱ゲームを作っていました。宿題はだいたい半月に1回、ペーパーでの問題が出されます。先生の説明はとても分かりやすく的確です。12年生はJavaを勉強しています。

YMさん、F高校卒業。コメントは在学時のもの

細胞分裂とダンス



理科の授業で、「細胞分裂をスキット、ダンス、歌などで表現する」というグループ・プロジェクトがあつて、さすがに耳を疑いました。理科の授業でスキット（寸劇）をすることになるとは、夢にも思わなかつたのです。

友達と4人のグループで、1人ずつが染色体となり恋愛のスキットをやりました。他のグループは歌ったり踊ったりと、個性豊かで面白い授業でした。また、「原子になった気分で日記か詩を書く」いうアサインメントもあり、驚かされました。

NOさん、ウェストバンクーバー高校へ1年留学

私たちちはC A P を選びました

授業では「HIROSHIMA」を発表しました

後期では英語、化学、社会を選択しました。化学はとてもハードで家庭教師をつけていますが、なかなか成績が上がりません・・・英語は今、エッセイを書いていますがアイディアが浮かばずStudy Block（留学生用の補助授業）でお世話になっている先生と四苦八苦しながら仕上げています。それと同時に短編小説もやっていて本を読み、その話の構造を勉強しています。英語の先生はとても厳しい方で留学生である私にも決して容赦はないです！！私の一番好きな社会は第二次世界大戦のプレゼンテーションの準備をしています。私のグループは広島原爆を調べることになって、私にはとても有利な課題なのでみんなの役に立てています。

RNさん、ドーバーベイ高校卒業



いつも励ましてくれるカナダの人々



カナダの人たちは外国人である私をすぐに受け入れてくれま

した。能力だけではなく本人のやる気を認めて評価してくれる、そういう国だと思います。何事にも一所懸命取りかかるとそれを評価し、「がんばったねと」といってくれました。

KUさん、コベキッド教育センター卒業

州のフィルムコンテストで入賞しました

僕は芸術方面のコースの興味があるので、フィルム（映画製作）ステージパフォーマンス（舞台演劇）メタルワーク（金属加工）ドラフティング（設計）などのコースを多く選択しました。フィルムの授業では、カナダ人の友達とチームを組んで、ヒットラー暗殺のブラックユーモアのフィルムを作りました。僕は音楽効果のすべてを担当し、BC州のフィルムコンテストで賞をもらいました！



ステージパフォーマンスでは、町のホテルのレストランでいきなり上演するという飛び込みのスicketが授業のひとつにあったのは驚きました。アドリブも交えながら何とかクリアしましたが…。その他ドラフティングの授業では町の企業（お店）からの依頼で看板文字をカッティングしたり、とても具体的、実用的で日本では考えられないような授業が数多くありました。将来は音楽や舞台関係の学校に進学したいと考えています。

GSさん、ペンティクトン高校卒業

カナダで日本語も勉強



僕の通っている学校には日本語コースがあったので、日本人ということで単位を取得することができました。もちろん現地のカナダ人も履修しているコースです。日本人だから楽だろうと思ったら試験は案外難しい！修了試験では「お好み焼き

私たちちはC A P を選びました

のレシピを日本語で説明せよ」との問題。お好み焼きなんて作ったことなかったので頭を抱えました。英語の訳を見ながら何とか書き上げましたが…点数は思ったよりとれなかった！

GSさん、ペンティクトン高校卒業

先生は生徒を信頼している

こっちの学校は僕がテレビ番組などから想像していたとおりだった。

こっちの学校に来て驚いたことがたくさんある。まず先生と生徒の関係だ。生徒は先生を尊敬し、先生は生徒を信頼している。先生は授業を楽しくしようといつも心がけている。だから授業は明るく笑いが絶えないクラスになっている。そして自分で自分の勉強したい科目をとることができる。自分で時間割を作れる。だから勉強させられているという感じではない。



学校にチップスやチョコバー、ジュースの自動販売機があちこちに設置されている。授業中に飲食してもうるさくは言われない。ここまで聞くと「自由でいいな」と思うかもしれない。自由といったら自由だ。授業さぼっても何も言われないし、授業中に食べてもいいし、授業は自分で決められるし。何故かというとこっちでは高校生はもう大人扱いだからだ。大人扱いとなると自分の責任は自分でとらなければいけない。親も自分で責任とりなさいという考え方だ。日本じゃ親が何とかしてくれると思うが、こっちは何とかしてくれないのが親だ。それは意地悪ではなくそれも勉強のひとつだからだ。もちろん相談にはのってくれるアドバイスはしてくれる。僕のホストペアレンツもそういう考え方だ。

KYさん、ペンティクトン高校卒業

将来のためにツーリズム（旅行）をとりました
 高校の授業で楽しかったのはツーリズムや美術、マーケティング、CAPP（将来設計）などです。現地の友達もできて、ツーリズムのクラスで仲良くなったりとその親友のジムとは今でも親友です。



AMさん、ジョンバースピー高校卒業

ファミリーはいつも力になってくれます

カナダでの高校生活はあっという間にすぎてしまいました。とても充実した生活を送り、勉強だけでなく人間的にも成長しました。英語が話せるようになりたいという気持ちで留学を決意し、日本を出発したときは期待ばかりで不安など全くありませんでした。しかし、カナダに行けばすぐに英語が話せるようになるという甘い考えは、カナダについてすぐにそんなに簡単なものではないと思い知らされました。



何もわからない最初のうちは、頼りになるのは日本語の通じる日本人。私の通っていたウェストビュー高校には10人前後の日本人が通っていました。英語だけの生活を夢見てたのにいつの間にか日本人の周りで生活をしていました。もちろん良い面もありました。最初は何もかもが新しく戸惑うことが多いので、日本語で話すことによって

私たちはC A Pを選びました

安心感がもてストレスも減っていました。

私の留学生活が変わり始めたのは Grade11（11年生）からでした。カナダの高校では Grade11 から自分の進路のあった授業を選択して勉強します。英語の授業は English（大学進学用）と Communication（カレッジ進学用）に別れ、私は English を選択しました。他にも生物、化学、物理、コンピューターなどを勉強しました。最初は本当に大変で授業についていくのに必死でした。でもだんだん慣れていくにつれて、カナダ人の友達もどんどん増えていき毎日が楽しくなりました。



Grade12（12年生）となり、大学進学に向けて授業も難しくなり、宿題も多く、睡眠時間も減りました。でも周りの友達は私のことを留学生としては全く扱わず、お互いに教えあいながら勉強しました。そのおかげで英語も上達し、成績も上がりました。そして第一志望のカナダの大学に合格し、生物学を勉強することが決まりました。

生活する環境も私にとってとっては大切でした。ホストファミリーは困ったときには助けてくれ、いつも力になってくれます。友達も勉強などを手助けしてくれて、一緒にいる時間がとても多いです。とても恵まれた環境で生活ができ、毎日をとても楽しく過ごしました。

カナダ人は自分の意思をはっきりと相手に伝えます。日本人の私にはそれで最初は大変でした。でもカナダに留学する上で、自分の意見をはっきりと持ち、相手に伝えることが大切だと実感し、自分から進んで意思を伝えることができるよう努めました。そうすることによって友達もたくさんでき、ホストファミリーとの生活もうまくいきます。多くの人のおかげで毎日楽しく本当に充実した高校生活が送れました。

NKさん、ウェストビュー高校卒業後、サイモンフレイザー大学へ進学

刺激しあえる良い友達を作ることが大事



私は高校2年生（11年生）の途中からチリワック高校に留学しました。11年生は現地では進路を決める大事な学年ですから勉強も大変になります。11月からの途中入学だったため、9月からの遅れを取り戻すために必死に勉強しました。私の行った学校はコーディネーターが日本人ということもあり、日本人の留学生が10人前後はいました。私は最初から日本人のグループに入らないように離れていきました。そうすると他の国の留学生やカナダ人が自然と声をかけてくれるようになりました。



カナダでは11年生からは大学に進学するか否かでコースが分かれています。私は進学コースに入り、カナダ人の友達や香港の留学生と一緒に勉強に励みました。勉強で一番力を入れたのはENGLISH 12。現地では大学側が一番見る科目といわれていたからです。中でもエッセイに一番苦労しました。日本ではエッセイの書き方の勉強をしなかったので、最初は構成も考えずにだらだら書いていましたが、先生に何度も手直しされ上達していきました。TOEFLのスコアも最初は大学入学のボーダーラインに少し及びませんでしたが、

私たちはC A P を選びました

2回目の受験で230を上回ることができました。特にエッセイは2回目でふつうはなかなかとれない満点を取れたので満足です。最終学年12年生の1年間は本当に勉強に明け暮れた毎日でしたが、いつも友達と励まし合えたので何とか切り抜けることができました。本当に良い友達に恵まれたと思います。キャリアセンターのカウンセラーの先生も助けてくれました。多くの先生はBC州の大学のことしか知らないので、私の希望するオンタリオ州の大学の情報はインターネットで調べ、出願もインターネットでしました。出願してから結果がくるまで3ヶ月ほどかかったので、この間が不安でつらかったです。家族とまめにメールで近況報告をしあっていましたので、両親の励ましも支えとなりました。



3月くらいから、トrenton大学、カールトン大学、サイモンフレイザー大学、ピクトリア大学と次々に合格通知が届きました。カールトン大学に決めた理由は自分のとりたい COOP プログラムが充実しているからです。このプログラムは在学中に学びながら希望の分野の企業で働くプログラムです。成績優秀者ということで奨学金ももらいました。

これから留学する方へ……目的をもって、流されないようにしてください。どうしても日本人と固まりがちになりますが、せめて日本人と出かけるときにはカナダ人も混せて、共通語を英語にするなど工夫をしてください。留学では刺激し会える良い友達を作ることが大事だと思います。私も「もうだめ、帰りたい」とくじけそうになったときもありましたが、友達や先生の励ましに救われました。9月からは大学生です。大学卒業後は将来は国連関係の仕事に就きたいと思っています。

YNさん、チリワック高校を卒業後、オタワのカールトン大学へ進学

2年間の留学を振り返って考えたこと

みなさん、初めまして。私は宮田夏樹です。現在、カナダのウェストビュー高校に通っています。ちょうどここに入学してから2年が過ぎました。2年前、私は期待と不安が入り混じり、とても複雑な気持ちでカナダにきました。そもそも留学を決意したのは、単なる英語が話せるようになりたいという気持ちからだけでした。日本を離れる前に留学経験のある人たちからいろいろとアドバイスをしてもらいましたが、正直言って、あまり頭に入っていませんでした。私の頭の中では自分が英語を流暢に話している姿しか思い浮かべず、そこに至るまでの過程を考えなかったのです。

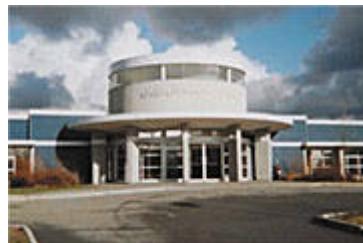
2年間が過ぎた今、ふとそれらのアドバイスが頭に浮かんできます。留学に当たり、目的を持つこと、自分の意志表示をはっきりと示すこと、自己責任をしっかりと持つことなどです。私は英語が不自由なく話せるようになりたいということが目的でしたが、それは違っていました。なぜなら毎日の生活が英語です。自然と覚えてしまします。ですからそのほかに何かを学ばなくてはならないと思ったのです。



現在、コンピューターとダンスを選択して頑張っています。それから英語を早く覚えるコツはまず友達をつくることです。自分の意志表示をはっきりさせ、積極的に自分から友達をつくることです。

私たちはC A Pを選びました

カナダの人たちはとても親しみやすく、自分の意志次第ではすぐ仲のよい友達が出来ます。英語もたくさん教えてもらいました。休日にはパーティを開いたり、スポーツをしたりとても楽しい毎日になります。ホストファミリーの人たちとも積極的に自分の方から話しかけたり、お手伝いをしたりすると、すぐコミュニケーションがとれるようになります。ホストファミリーの人たちはあまり細かいことはいいません。ある程度自由に行動させてくれますが、何かトラブルがあると相談には乗ってくれますが、最後には自分でどうするかは決めなくてはなりません。自由であるとともに自己責任をしっかりと負わなくてはならないのです。でも学校にはカウンセラーの先生がいますから、困ったこととか、迷っていることがあったら、まず相談することがよいと思います。親切にアドバイスしてくださるのでとても助かります。最初は文化、習慣の違いでとまどったこともたくさんありましたが慣れてくると日本に無い、おおらかな人間性、合理的な考え方、それに何よりもすばらしい大自然、カナダが大好きになりました。残りの1年間、もっともっと多くのことを吸収して頑張ってみたいと思っています。



NMさん、ウェストビュー高校卒業。体験談は在学時のもの。

留学生専用の理科、社会もある！

私の留学した高校は、留学生が多かったため単位のとりやすい留学生専用の英語や数学、社会、理科のコースがありました。でも敢えてそれらの楽な科目はとらずに、すべて現地のカナダ人のとるコースを選択しました。それがよかったですかもしれません。カナダ人の友達がたくさんできました。YKさん、DWボピー高校



私たちはC A Pを選びました

オープンマインドでいることが大事

私の留学は、たくさんのこと学ぶことができ、楽しく、本当に充実したものとなりました。たくさんの人々に協力してもらい、助けてもらいましたが、ホストファミリーは自分の親と同じくらい、私にとってかかせない存在でした。彼ら無しで私の留学は成功しなかったように思います。

日本でも家庭によって違いはあるのは当たり前ですが、カナダでも家庭による違いはあります。たとえば夕食では、カナダでは家族みんなで分担して用意をするという話を聞いていました。確かにそういう家庭もあるのですが、毎日ホストマザーが一人ですべてを用意する家もあり、一様には言えないのだと知りました。逆に、共通して言えたことは、みんな家族をとても大切にし、私も本当の家族と同じように接してくれたと言うことです。



ホームステイで大事だと思ったことは、オープンマインドでいることだと強く感じました。ずっと違った環境で生きてきた者同士、価値観の違いはやはりあります。自分が絶対に許せないと思うようなことも、相手にしたら当たり前のこともあります。要は、自分が良い、悪いと思うからといって、そう決めつけてしまわずに、相手の立場になって理解することが一番大切だということです。そして、自分も一度浸ってみることです。するとどんどん異文化というものが自分の中に吸収されていき、いろんな考え方を学べるはずです。誰が考えてもしてはいけないこと、それだけはしないよう常に頭に置き、あとは積極的に自ら行動していくことが、成功へのカギであると思います。

NJさん、ペンティクトン高校卒業後、横浜市立大学在学



カナダの高校を卒業後、カナダの大学に進学した先輩、お手紙より抜粋

私は高校1年の2学期からガリバルディ高校に入学しました。運良く最初から進学コースが取れたので、初めのうちは友達をつくるというよりもまず英語に慣れ、ある程度授業に余裕が出てくると友達作りに重点を置きました。今年の6月に卒業しましたが、後輩に言えることは「周囲の雰囲気に流されない」ということです。どうしても日本と違って大学に行く人が少数なので授業をさぼったり宿題をやってこない人が目に付きがちですが、その少数の人たちの努力は驚くものです。カナダに勉強をしにきた以上、そういう人たちを見習い、勉学に励みたいものです。実際、私もそういう人たちとつきあうことで大変影響を受けました。本当に持つべきものは互いに刺激を与えあえる友人です。最初は細かいことに気を使わず、自分を異文化の中に浸透させ、それから遊び（これも大変重要です。）と本業の勉強をうまく両立させ、意義のある高校生活を送ってください。私は9月からダグラスカレッジに進学しました。私の英語力はまだまだだと改めて感じています。勉強の方は前よりも大変になりましたが、学校生活を楽しんでいます。今後もこの美しいカナダのブリティッシュコロンビア州で勉強を続けていきたいと考えています。



NOさん、ガリバルディ高校卒業後、ダグラスカレッジへ進学。体験談は高校卒業時のもの

カナダ留学、最初は不安が大きいですね



最初は誰もが期待と不安で胸がいっぱいになります。僕自身もそうでした。成田空港で両親や友

達と別れた後、一人出発ロビーの待合室で飛行機を待っているうちに、それまで抑えていた不安な気持ちや恐怖がドドッとこみ上げてきたのを今なお鮮明に覚えています。最初の2ヶ月は時差や初めて見るものに対する興奮と体験したことのない異文化の中での生活による疲労で体の調子もよくなく、頭痛がしたり、1日中寝過ごした日もありました。



次第に時差やカナダでの生活のリズムにもなれ、新しい友達もでき、だんだんと余裕も出てきました。英語で受ける授業は前もってある程度忠告されていたものの、実際に受けてみると予想以上の難しさだということがわかりました。宿題の量も多く、特に初めの半年はカルチャーショックやホームシックにかかるなど勉強に集中できない毎日でした。

2年と半年過ぎ、ある程度生活が落ち着き、余裕が出てきた今でも、毎日の勉強の習慣は欠かせません。カナダの高校は日本の大学のようなシステムで、ホームルームがなく、そのためいろいろな

私たちはC A Pを選びました

年齢の人と接する、そして友達になることができます。そういう場での自己表現は非常に大切で、カナダ人の友達を作る上で大きな助けになります。

逆に自己表現をしっかりやらない人は本来の自分とのギャップに悩まされ、ノイローゼなどにかかってしまうこともあります。たくさんの人々が留学を希望する今日、彼らの大半がいざ留学となるとなかなか決断できないのは語学力不足



と、未来に対する不安からだと思います。しかし語学力というものは留学先で焦らずゆっくりと時間をかけて得ればよいし、それに日本の大学も今ではほとんどが帰国子女用特別入試枠を設けています。つまりカナダで高校生活を過ごした生徒は日本に帰国し、日本の大学に入学することもでき、また、高校で得た語学力を生かして英語圏の大学もしくは大学院に進学することができます。僕自身カナダ留学から得たものは大きいと思いますし、今が自分の人生で一番輝いてときだという実感もあります。いろいろな面でサポートしてくれた両親に感謝し、充実した毎日を過ごしています。



KNさん、セルカーカ高校卒業。体験談は在学中のもの。

1年間の留学から帰国して

留学ってただ他の国に行っていい体験をしてくるんじゃなく、自分を成長させて大きくさせてくる、一種の修行だと思います。行って間もない頃は一人で寂しくて、誰も頼る人がいなくて、英語も分からなくて、学校にも慣れなくて、とにかく「帰りたい」という一心でした。友達関係もうまくいかず、喧嘩もありました。カナダ人の友達も作れなくて、ほんと何のためにカナダに来たんだろうって不信を抱くこともありましたが、12月頃になって少しずつ英語が分かるようになり、友達ともうまくいくようになってきたら、すごくカナダの生活が楽しくなっていきました。そして3月には家族が来て、自分の英語の上達ぶりも見せ、家族のみんなもとっても満足して帰っていき、5月にはいるとカナダ人の友達ができ、その子と遊ぶことも多くなりました。



英語の方もその子と友達になってから見事に上達していき、たった1ヶ月で3ヶ月分くらいの英語力を得ました。6月はテストづくめで毎日勉強に明け暮れるだけでしたが。そのおかげで勉強の楽しさもわかり、みんなに負けたくない、他の子よりもいい点を取ろうという熱意も出てきて、最後の最後にほんと英語力が伸びたって感じでしたね。やっぱり勉強すればするほど、努力が報われて、そのたびにうれしくてもっと勉強しようって思う

私たちはC A Pを選びました

んです。日本ではあまりそんなことなかったのに。ルームメイトの Angela (Korean)は私のひとつ年上でしたが。学年が同じで、毎日一緒に学校に行っていたし、勉強も教え合ったりできたり、すごく仲のいいルームメイトでした。みんなからも「あいり達みたいに仲のいいルームメイトなんて見たことないよ。ほんとうらやましいね。」っていつも言われていました。多分ルームメイトがいなかつたら去年の10月頃にはもう日本に帰っていましたな、なんて思います。Angela は私のルームメイトでもあって、カナダでの一番の親友でもあったからね。お互い言葉は違うし、まして Korea は昔、日本の植民地だったから大変だったこともあったけど最後には、お互いの国のこといろいろ学んで、昔は日本人に対する印象が悪かったといっていた Angela も私と知り合って日本人が好きになったと言ってくれたし、そのことに対しあいりは改めて日本人が Korean にどんなにひどいことをしたのかとかもいろいろ Angela から聞けて勉強になったし、お互い英語で話さなければならぬから英語の勉強にもなったし、とにかく私は Angela からいろんなことを学びました。そしていっぱい私のこと、助けてくれました。私はそんな Angela に感謝の気持ちでいっぱいです。今後自分がどんな道を歩んでいきたいのかもわからない私ですが、とにかくそれは9月に学校に（日本の学校に復学）行きながら決めようと思っています。今回のカナダ留学ではいろいろな人にお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。特に自分の親には親孝行をと思っています。C A Pスタッフにもたっぷりとお世話になりありがとうございました。

AEさん、オークベイ高校へ留学



留学して3週間たって

私は

オリバーに着いて、ちゃんと留学生活を送っています。学校に行くまでの6日間は毎日いろんな人と会っていろんな体験をしました。結婚式に出席したり、馬に乗ったり、バーベキューをしたり。とにかく毎日感動することばかりでした。ここはすごく自然がきれいで良いところです。星なんかも本物のプラネタリウムみたいでびっくりしました。ほんまに家族や友達に見せてあげたいです。学校も結構友達もできて（カナダ人もイラン人も日本人も）頑張っています。この学校は日本人が8人ぐらいいてびっくりしました。日に日に友達とも仲良くなって楽しくなっていきます。でも今は英語が聞き取れずしゃべられずで見ているだけです。でも慣れなければしょうがないと思って耐えています。



ホストファミリーもすごくいい人です。でも1回ディナーを作ってくれない日があって、「遅くなつたときは何でも自分で食べて」と言われたんです。勝手に自由に食べるっていうこの家族の仕組みは分かったけど、でも今日は夕御飯食べといとか言ってくれな分からんやん！！っておもったんですけどそれもうまく言えず、今は自分が情けないです。言いたいことも言えず、自分をアピールできず悔しいです。でも耐えて慣れるしかないって分かってるから我慢しています。でもできる

私たちはC A Pを選びました

だけ思ったことはどうにか言って、しゃべる練習もしていこうと思っています。ホストファミリーは優しいし、ただ私の英語だけが問題です。学校ではバレー・ボールチームに参加して思ってたよりすごく強かったのでやめようと思ったけど、チームメイトの一人が「Don't give up! あなたはバレーを楽しんだらいいんだから」と言ってくれて、むっちゃやる気が出て、頑張ります。学校ではドジばかりしているけど何でもやろうと思っています。まだ3週間しか経っていないけど、もう3週間も経ちました。毎日頑張っていこうと思っています。日本人のコーディネーターにも会いました。とってもステキな人でした。とにかく、今は私の英語力が全然できず悔しくてつらいときもあるけど、頑張ります。

E0さん、サウスオカナガン高校へ1年留学。コメントは在学中のもの

卒業後、日本へ帰国し日本の大学へ進学

卒業した高校の留学生コーディネーターたちへの手紙から抜粋

Dear Mr. Rupert, Ms. Wilson and Ms. Mathias,
How is everyone doing? I hope you are all fine.
I heard about this year's graduation from Asa
and I was reminded about my graduation last
year.

I am sending this fax to let you know that I
have been accepted into Sophia University.
This is the university that I most wanted to
attend. I am so happy and I appreciate all of
your help and care.

I am now working at the Foreign
Correspondence Press Club of Japan in Tokyo
for the summer. Mr. Rupert might know of this
club. This is a very interesting place to work as
I am surrounded by many well-known
journalists. I want you to know that my
English got me this job as well as entrance into
the university. I really want you to know how
precious my studies at Oak Bay High School
were and how important this was to my life.

Thank you again and I hope to see you some
time.

Yours truly,

AIさん、オークベイ高校を卒業後、上智大学へ進学

あこがれと英語の必要性を感じて留学

英語に対する憧れと英語の将来的な必要性を感じ、中学卒業後、カナダの公立高校に進学しました。現地の学校に初めて足を踏み入れた日のことを昨日のように覚えています。

英語も分からず、知っている人も誰一人いません。不安と緊張でいっぱいでした。何とか友達を作ろうと必死でクラスメイトに声を掛け続けました。そして少しのチャンスも逃さずにいろいろな行事に参加させてもらいました。やがて会話が少しずつ出来るようになり、気付くと私にはたくさんの友達ができていました。多民族国家であるカナダで様々なバックグラウンドを持つ友達と交流し、友情を深め、しかもかれらの国民性に触れるといった貴重な体験をすることができました。真のコミュニケーションを図るには英語というのはあくまでも手段にしか過ぎず、肝心なのは相手の心を理解し、受け入れ、また自分自身も相手に受け入れてもらえるように努力する姿勢が必要です。ガッツも大事です。例え失敗したり、大恥かいたとしても、自分を見失わないように前に進もうとすればきっと周りが手助けしてくれて素晴らしい経験ができると思います。

帰国後、上智大学外国語学部フランス語学科に入学しました。フランス語を専攻した理由は、カナダの公用語だったからです。授業の内容が濃く難しいので、ついて行くのが大変でしたが、フランス語漬けの毎日はとても充実していました。また、大学入学と同時に幼い頃から夢だったラジオDJの仕事も始めました。現在インターFMやNack 5という局で、情報番組や音楽番組のパーソナリティを務めています。海外から来るアーティストの取材やインタビューなどが出来るのは役得です。今こうして仕事が出来ているのは3年間の留学生活があったからです。ホストファミリー、応援してくださったC A Pの方々、両親に本当に感謝しています。来年大学を卒業した時、帯で番

私たちはC A Pを選びました

組が持てているか分かりませんが、これからも人々に夢を与え続けるアーティストたちの側でDJの仕事をしながら楽しく過ごせたらと思っています。カナダが大好きだから将来はB.C.州に家を買いたい。お世話になった人たちにお返しをする為に一生懸命働きます。(笑)



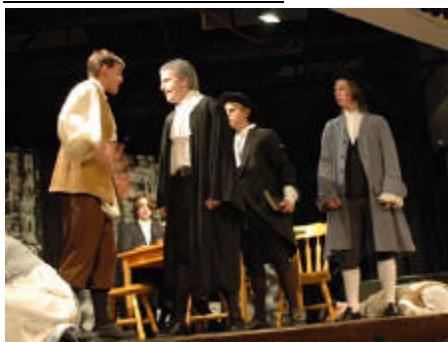
AMさん。ピットメドウズ高校卒業、上智大学仏文科を卒業し、名古屋のZ I P - F MでD Jとして活躍中。体験談は上智大学在学中のもの。



子供を留学させたご家族のコメント



学校選びで大事なこと



定することができませんでした。一度現地の学校を見てみようということになり、C A Pのアドバイスで絞ったいくつの学校に下見のアポイントをとってもらいました。親子でカナダへ渡り、現地の学校の担当者に学校を案内してもらったり、

カナダへは行ったことがなかったので、地区や学校を選ぶ際には迷ってしまい、なかなか決

実際に留学している生徒やホストファミリーにも会わせてもらったりして、留学生活の全体像が見えてきました。それぞれの学校によいところがあり、また、迷ってしまったところもあるのですが、最終的にはどこへ行っても本人次第ということもわかりましたので、納得した上で学校を選ぶことができました。

KMさんの
母親



留学中の生活状況

C A P からの電話と定期レポートで知らせが来るまで、現地でいくつかの問題があることには気がつきませんでした。欠席が多かったことと未提出の宿題などの問題です。ほっておけば最悪ではな



いにしても、停学程度の処分対象になる問題を未然に防ぐことができました。本人と話すだけでなく、学校やホストファミリーとも密接に連絡を取ってくれていたので、状況をつかむなかで解決できてよ

かったです。

DSさんの母親

問題を事前にキャッチできました

うちの子はE S L の充実度を考え留学生の多い学校へ留学しました。留学生が多いことから、連絡が徹底していないこともあるようです。R子の場合は、一步間違えば9月の新学期



に間に合わなくなってしまうところでした。ビザ更新の手続きができていないままに、日本に一時帰国するところだったのです。この問題を事前に知られ、帰国前になんとか手続きも手伝ってもらい、9月からの新学期を予定通り迎えることができました。

RSさんの母親

転校しました



事前に分かっていたことはいえ、学校が始まると日本人が多いよ

私たちはC A P を選びました

うに感じた本人が転校したいと言ってきました。C A P に相談し、最終的には転校することになりました。カナダに行ったことがない私でも、現地の事情や様子を教えてもらうことで、理解を進めながら転校手続きを決めることができました。押しつける結論を持たず、話を良く聞いてくれ、知りたい情報を簡潔に説明してくれるスタッフの姿勢に安心感を持ちました。TDさんの母親

面倒見の良いホストファミリーでした



ホストファミリーは本当に面倒見の良い方で感謝をしています。食事や健康に気遣ってくれるだけでなく、毎日夕食後に息子の勉強を見ててくれているのです。特に大変なENGLISH(国語)中でも留学生には最も難しいと言われる古典=シェイクスピアを教えてくれているようです。一時はマクベスと一緒に読んでいると言っていました。今はやはりENGLISHの難解な部分、Poetry(詩)を見てくれているとのこと。日本では親が高校生の勉強を見るというのはなかなか考えにくいのですが、彼はホストファミリーの言うことを素直に聞いて勉強に励んでいるようですので安心しています。

MUさんの母親

我が子が国際社会で活躍できるように

留学を決意した当時、娘は中学を卒業したばかりでしたが、留学に対する真剣な姿勢を見て心から応援しました。出発に当たり私も同行して現地のホストファミリーに挨拶を・・・と



思っていたのですが、「こういうときは一人で行くものなの！」と逆にいわれてしまつたことを覚えています。

自分が想像していた生活とのギャップを感じたらしく、カナダに到着して最初の2週間は毎日のように電話がありました。そんなときは「しっかり」「頑張って」と言い続けていました。今では勉強はもちろんですが、友達との交流も大いに楽しんでいるようです。もともと自立心の強い子ですので、親として「こういう人になってほしい」ということは何もありません。海外での生活は本人の性格・能力にとてもあつてはいるようなので、このままグローバルな考え方を吸収し、本人の希望通り国際社会で活躍できることを願っています。

SOさんの母親

かなり慣れていた私も感心した卒業式のこと

三年あまりの留学。娘は本当に充実した高校生活を送ることができたと思います。卒業式に出席し、友人達やそのご家族とも親しくお会いする機会がありました。実の親以上に心配してくれたり、しかつてくれたりと、すばらしい人たちに囲まれて、もう、何不自由なく友達とおしゃべりに興ずる娘の姿に、留学させて良かったとつくづく思いました。

日本では考えられないようなイベントもたくさん



あり、そのほとんどに娘はおもしろがって参加したようです。極めつけの卒業式は、夜の八時に始まり、保護者は十一時頃帰りましたが、その後も延々と朝までダンスなどの遊びが続き、朝の五時頃迎えに行った親にも学校から

朝食が出るというのには、かなり慣れてきていた私も感心してしまいました。

すっかりカナダが気に入った娘は、友達を通じて早々とバンクーバーにアパートを見つけ、家賃が高いからと三人でシェアするそうです。カナダでの金銭的なことは本人に任せていましたが、物

私たちちはC A Pを選びました

価が安いこともあり、無駄遣いと思えるようなことはありませんでした。



C A Pに巡り会えた幸運に感謝しています。そのきっかけとなった、当時松本市に住んでおられたカナダ人女性の行方がわからないのが残念です。これで親業卒業できそうです。本当にありがとうございました。

SSさんの母親

娘はカナダの大学へ進みました

娘も高校卒業後大学に進学して、初めての半期を終えたところでです。これまでC A Pのスタッフのみなさん、ホストマザー、高校の先生方と多くの方々に支えられ、カナダで



の学校生活を送ることができました。幸い日本の高校卒業資格も得ることができましたが、本人の希望もありブリティッシュコロンビア大学（サイエンス）への進学を決めました。大学での勉強は高校にもまして大変なようですが、寮生活をしながらがんばっているようです。これまでのサポートありがとうございました。

KSさんの母親

